

竜西だより

1月号

2017年1月10日
竜王西小学校
児童数:296名
学級数:14学級



校長 富長 宗生

学校教育スロガン
学びきらきら 心うきうき 行いどんどん



明けましておめでとうございます

皆様にはお健やかに初春を
お迎えのこととお慶び申し上げます



保護者、地域の皆様方、どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

1月は「睦月(むつき)」とも言いますが、それは「仲むつまじく」が語源だそうです。この冬休みは曜日の巡り合わせで例年より長くなり、子ども達は大喜びでしたが、さて、保護者の皆様方は年末年始をいかが過ごされましたでしょうか(子どもとは逆に、お疲れになった保護者の方も多いのではと拝察いたします)。

ご家族「仲むつまじく」のお正月で、私が連想するのは正月定番の遊びです。昔ながらの羽根つきや凧あげなどの遊びを思い浮かべますが、しかし現代では、実際に遊んだことのある子ども達は少ないのかもしれない。他にも、かるた、百人一首、双六、めんこ、お手玉、コマ回し、だるま落とし、福笑い等の、伝統的ないわば“アナログ遊び”は、その由来から、子どもの健やかな成長や家族への願いも読み取れ、また家族の絆を強めるのにも役立つと思われます。子ども達の祖父母の世代に近い私だからよけいを感じるのかも知れませんが、世代を超えて楽しめ、親から子へ、祖父母から孫へ伝承すべき昔ながらの遊びを私たちは大切にしなければならないと思っています。



「笑う門には福来る」 良い年でありますように



その中で“福笑い”をここに一例として取り上げさせていただきます。

福笑いとはよくご存知のように、目隠しをして、おたふくの輪郭を描いた紙の上に、目・鼻・口・耳などを置いていくゲームです。出来上がった顔立ちが滑稽なので、それを笑って楽しみます。「笑う門には福来る」と縁起がいいことから、正月にふさわしい遊びといえます。より面白い顔を作って笑わせた者が勝ち、正確な顔を作った者が勝ちなど、ルールを決めて勝負する場合があります。

実はこの福笑いの遊びにも意味があるとのこと。

おたふく顔といえば、丸いほっぺに細い目と低い鼻、小さなおちょぼ口を三角おにぎりに配したような愛嬌のある顔が思い浮かびます。古くは美人の代名詞として使われ、その愛嬌ぶりと福相を愛された“お多福”ですが、最近では「おたふくのようだね」と言われて喜ぶ人は、残念ながらほとんどいないのかもしれない。

大きな目や高い鼻、すっきりした小顔全盛の現代では、いささか分が悪い“お多福”です。でも、かつて、“お多福”が「五徳の美人」と呼ばれていたことをご存じでしょうか。

- 柔らかに半分閉じたような目は、自分自身を深く見つめる内省の心。
- 低い鼻は低い心。すなわち驕(おご)り高ぶらない謙虚な心持ち。
- 小さな口は、愚痴や不足、悪口を言わない慎み深さ。
- 豊かな耳は福耳とも称しお金に困らない印とも言われますが、本来は人の言うことをよく聞き、苦しんでいる人たちの声に進んで耳を傾ける傾聴の姿。
- そして優しさと穏やかな心に満ちた柔和な顔。穏やかな心。

このように“お多福”の「五徳」は、顔の造作になぞらえて人としての美しい生き方を表しています。この五つの徳が、内側からにじみ出る美しさを「五徳の美人」と言い、当然、これは生き方の問題であり、女性だけとは限りません。“お多福”のような生き方が、「多福」につながるのです。

正月の伝統的な“福笑い”の遊びに、このような伝承されてきた人々の願いが隠されている、だからこそ私たちは次世代に引き継いでいきたいです。



3学期は「実づくり」!

この学年の締めとなる学期、いよいよ3学期がスタートいたしました。

私は1年間の学校生活を、次のように捉えています。すなわち、1学期は「土づくり」、2学期は「花づくり」、そして3学期は「実づくり」だと。

1学期はいろいろな意味での基盤づくりだから「土づくり」です。そして耕したその土に各自が根付きしっかりと根を広げる時期です。

2学期は子ども達の活動や成果が花開く「花づくり」の時期です。今年もりゅうせいピックや竜西フェアをはじめ、大輪が咲きました。

そして3学期がいよいよ「実づくり」です。1年間の成果が各自の果実となり確実にステップアップして、次の進級・卒業に向かう時期です。

だからこそ、3学期の心構えはとても大切です。子ども達もそのことを一人ひとりがしっかりと自覚してほしいです。そして、今まで以上に、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。折に触れてそのことを話していきたいと考えています。

そのためには、規則正しい生活のリズムが欠かせません。この年末年始の冬休みで、もし、生活リズムが崩れかけているのであれば、一日も早く規則正しい生活に戻してやってください。

ご家庭でのご協力をよろしくお願いたします。

「行事育」なる言葉を知りました

最近、「行事育」なる言葉を知りました。和文化研究家・三浦康子さんが提唱されているメソッド(方法)だそうです。子育てに有効で、親子の根っこを育むことができると推奨されています。子育て中は何かと大変ですが、「行事育」は笑顔をもたらし、一生の宝を育みますとのこと。

ポイントは、季節を潤す諸行事をその都度、肩ひじを決して張らず、でも、ちゃっかりと家族みんなで楽しむことにある、と私は理解しました。

日本の行事を紐解くと、幸せを願って邪気払いをしたり、豊作祈願をしたり、収穫を祈ったりする内容で、そのほとんどが宮中行事や農耕神事として行われていました。日本人は、様々なもののお陰で物事が成り立っていると考え、折々に感謝と祈りを捧げてきたといえます。

それが時代とともに家庭に浸透していくと、祈願の対象がより身近になっていき、家族の幸せを願うものになっていきました。たとえば、神社の節分行事は地域や氏子のために豆まきをしますが、家庭なら家や家族のために豆まきをするというように、家庭で行う年中行事は、何事も家族に結びついていくわけです。その結果、千羽鶴に見えない気持ちを託すのと同様に、行事に関わるすべての物事に幸せになるための思いが託されるようになりました。

つまり、日本の行事は幸せを願う気持ちを形にしたものといえるので、それが家族に対する愛情表現になります。受験のときに、せめてお守りを持たせてあげたいと思う親心と同じで、思いを込めて行う行事は、子どものお守りになっていくでしょう。

また、文化はそう簡単に廃れませんから、文化と愛情に包まれた日本の行事は、愛された記憶として生涯を彩っていきます。

1月行事



- 1日(日) <元日>
- 9日(月) <成人の日>
- 10日(火) 始業式
- 11日(水) あいさつ運動 給食開始
なかまタイム きらうきどんの日
5年身体測定
- 12日(木) 4年身体測定 移動図書館
- 13日(金) 3年身体測定
- 14日(土) ファミリー読書(～15日)
- 15日(日) 竜王町いろはかるた大会
- 16日(月) 2年身体測定 委員会活動
- 17日(火) 1年身体測定 暗唱ラリー
避難訓練
- 18日(水) 祖父母参観(2校時)
フッ素洗口開始
- 19日(木) 食育の日
- 20日(金) 6年租税教室
給食週間(～26日)
- 22日(日) 第3回英語検定
- 23日(月) クラブ(3年クラブ見学)
- 24日(火) お話タイム
- 25日(水) なかまタイム
- 26日(木) たてわり遊び
- 27日(金) スキー教室
- 30日(月) 委員会活動
- 31日(火) 暗唱ラリー



※毎週火・金曜日はPTAによる校区内パトロール